



公演案内

LINEUP

ホーム > 公演案内 > 『博多座ガムラン祭り』

絶賛発売中

2026年2月22日(日)

博多座ガムラン祭り スアル・アグン「ジェゴグ」日本ツアー2026



チケット購入
TICKET

オンライン

電話予約

窓口購入

新着・ニュース NEWS

2025/12/15
イベント開催決定!

2025/12/02
プロモーション動画を公開しました!

2025/11/28
特別先行予約・通常先行予約のお知らせ

チラシ(PDF)

もっと見る ↓

シェアする



作品介绍

博多座・アジアの芸能文化紹介シリーズ第3弾!
神々の島・バリ 幻の音楽「ジェゴグ」最高峰楽団スアル・アグン10年ぶりの来日公演!
ユネスコ無形文化遺産「ガムラン」を堪能する一夜

第一部:ガムラン〜宮廷の調べ〜

<出演>ランバンサリ

<解説>森重行敏(ランサンバリ)

第二部:ジェゴグ〜大地の響き〜

<出演>スアル・アグン

<解説>皆川厚一

博多座・アジアの芸能文化紹介シリーズ 第3弾 開催決定!

日本とアジアの交流拠点である福岡の劇場・博多座から、アジア文化の発信を目的に2021年にスタートした「博多座・アジアの芸能文化紹介シリーズ」は、第1弾:『博多座神楽祭り』、第2弾:『モンゴルの風 2022「モンゴル国立馬頭琴交響楽団」』と続き、いよいよ第3弾が開催されます。今回は、インドネシアの伝統音楽「ガムラン」がテーマ。その中でも、“竹のガムラン”と呼ばれる幻の音楽「ジェゴグ」の演奏をお届けします。



神々に捧げるインドネシアの「ガムラン」

ガムランは、インドネシアで生まれた伝統音楽で、青銅製の打楽器を中心に構成される合奏音楽です。もともとは神々への祈りや祝祭のために演奏される、宗教的・儀式的な意味を持つ音楽と舞踊でした。この音楽は、五線譜では表現しきれない独特のリズムや音階を持ち、口頭伝承によって受け継がれてきました。その神秘的な響きと表現力は、地域の古典芸術の枠を超えて、世界中の音楽家に影響を与えています。特に、1889年のパリ万国博覧会でガムランが紹介された際には、フランスの作曲家クロード・ドビュッシーやモーリス・ラヴェルなどがその音楽に強いインスピレーションを受けたとされています。以来、その音色は世界中から注目され続け、2021年にはユネスコ無形文化遺産にも登録されました。

“生きている音楽”ー竹のガムラン「ジェゴグ」



ジェゴグは、インドネシア・バリ島西部のヌガラ地方で生まれた、竹製の打楽器による伝統音楽です。ガムランの一種ですが、青銅ではなく巨大な竹を使って演奏されるため、「竹のガムラン」とも呼ばれます。通常、演奏には大小14台の竹楽器が使われ、16ビートの躍動するリズムと直径30センチにもなる竹から生まれる迫力ある超重低音は、聴衆を虜にします。なんと、使用する音階はたった4音。楽譜は使わず、演奏者同士の呼吸や即興(アドリブ)で音を合わせる、非常に高度な演奏スタイルが特徴です。ジェゴグの楽器は、竹を切り出してから乾燥に半年、さらに半年かけて加工され、完成までに1年

以上かかります。しかし、どんなに手入れをしても5年ほどで音が劣化してしまうため、常に“生きている音楽”として、その日その日の竹の状態によって音色が変わります。つまり、同じ音は二度と出せない、まさに唯一無二の音楽なのです。

最高峰の楽団スアル・アグン10年ぶりの来日！



そのジェゴグの演奏を披露するのが、インドネシア最高峰のジェゴグ楽団として知られる「スアル・アグン」です。新型コロナウィルスの影響で長らく来日が叶いませんでしたが、今回実に10年ぶりに来日！今回の公演では、10年ぶりにふさわしく、通常14台の竹楽器を22台に増やした特別編成！4人の踊り手も華を添えます。さらに、2チームに分かれて演奏で競い合う「ムバルン」も大きな見どころ。リズムとメロディがぶつかり合う激しさから“音の格闘技”と称される、迫力の音バトルをぜひ体感してください。

福岡、愛知、東京での3都市ツアーを実施！

多くのファンの声に応え、福岡だけでなく愛知・東京でもツアーを実施いたします。

主催地である福岡公演は『博多座ガムラン祭り』と題し、日本のガムラングループ「ランバンサリ」も迎えての豪華二部構成。美しい宮廷舞踊に加え、インドネシアと東京を拠点に世界的に活動する舞踊家リアント氏が、勇壮な男性舞踊も披露します。さらにミュージカルなどでパーカッショニストとして活躍する長谷川友紀氏をスペシャルナビゲーターに迎え、打楽器奏者ならではの視点でガムランとジェゴグの奥深い世界に迫ります。

愛知・東京は『スアル・アグン「ジェゴグ」日本ツアー2026』として、愛知公演では地元名古屋を拠点に活動する日本のジェゴググループ「スカル サクラ」がゲスト出演。最終地となる東京公演は、スアル・アグンの単独出演でジェゴグの魅力をたっぷり濃密にご堪能いただけます。

スアル・アグンの代表は創始者スウェントラ氏から子息のグデオカ氏へと代替わりし、今回はその新体制で初の来日公演です。新生スアル・アグンの幕開けにどうぞご期待ください！

出演者・スタッフ

スアル・アゲン



ジェゴグの指導者であった父の教えを受けイ・クトゥツ・スウェントラ(1948～2018)が創設したインドネシア最高峰のジェゴグ楽団。ジェゴグはオランダの植民地統治時代に竹が武器になるという理由で楽器を没収され、第二次世界大戦、独立戦争と続く動乱の中で途絶えていたが、スウェントラが1970年代に復活させた。さらには国内外で公演を行う実力あるグループに育て上げた。その音色は世界に衝撃を与え、1998年フランス開催のサッカーワールドカップでは開会式のパレードに参加。日本をはじめ海外公演も数多く行い、様々な国のアーティストとのコラボレーションも実現させてきた。

ランバンサリ



中部ジャワの伝統的なスタイルのガムランを演奏するグループ。東京藝術大学における故小泉文夫教授のガムラン演奏サークルを母体として、1985年に演奏グループとして結成された。以来、自主公演や各種イベント、学校の芸術鑑賞教室等幅広い活動を続けている。これまで、インドネシアの著名な演奏家、舞踊家を招聘し共演するほか、インドネシアのフェスティバルにも参加。結成40周年を迎えた2025年にはインドネシアで影絵芝居ワヤン『竹取物語』の公演を行った。



スペシャルナビゲーター 長谷川友紀

東京藝術大学打楽器科首席卒業。同大学管弦楽研究部非常勤講師として、藝大フィルハーモニア管弦楽団に在籍。日本打楽器協会主催新人演奏会にて、最優秀特別賞を受賞。現在、東宝、ホリプロ、宝塚歌劇団、劇団四季など、多数のミュージカル公演に参加し、国内外の作曲家から指名を受けるほど、その演奏は高く評価されている。その他、映画やTVドラマ、CM、ゲーム音楽などのレコーディング、また小室哲哉、平原綾香などのアーティストのコンサート、数々のイベントなど、幅広い演奏活動を行っている。